

停電時ボタン発光

オリエンタル工芸社が開発

エレベーター操作盤

オリエンタル工芸社（東京都大田区、杉本亨社長、03・3763・3601）は、非常用電源を内蔵したエレベーターの操作盤カバーを開発した。停電でエレベーターが止まっても、内蔵している蓄電池（バッテリー）を電源として、エレベーター籠内の操作盤の押しボタン部分が発光。閉じ込められた人々に安心感を与えられる。受注価格は通常の操作盤カバーに比べて1割程度高くなる。年間30台の受注獲得を目指す。



開発した操作盤カバーは、カバー内部に縦30ミ×横50ミ以上の大きさの小型バッテリーを内蔵。通常電源と併用しており、非常時には自動的にバッテリーに切り替わる仕組み。

停電で電力供給が絶たれた際に、エレベーター籠内で停止階を示す押しボタンの一部を発光させる。押しボタンはもともと内蔵発光ダイオード（LED）で発光する構造のため、天井照明タイプと比べて電力消費量が少なく、5〜6時間は籠内を照らせる。

新型のエレベーターでは、停電時に籠内を照らせる照明が天井に付いているタイプもあるが、操作盤の押しボタンを光らせるタイプは珍しいとしている。

停電時に操作盤カバーの一部が発光してエレベーター内を照らす

非常用の操作盤カバーはもともと、停電時の照明として開発を進めていた手のひらサイズの小型非常灯の技術を応用した。この小型非常灯は開発に成功した後、「おともライト」として命名し事業可能性を探った。だが、製造原価が下がらず採算に乗らないと判断、生産・販売を断念した経緯がある。